

5 職員のインフルエンザワクチン予防接種率

指標の解説

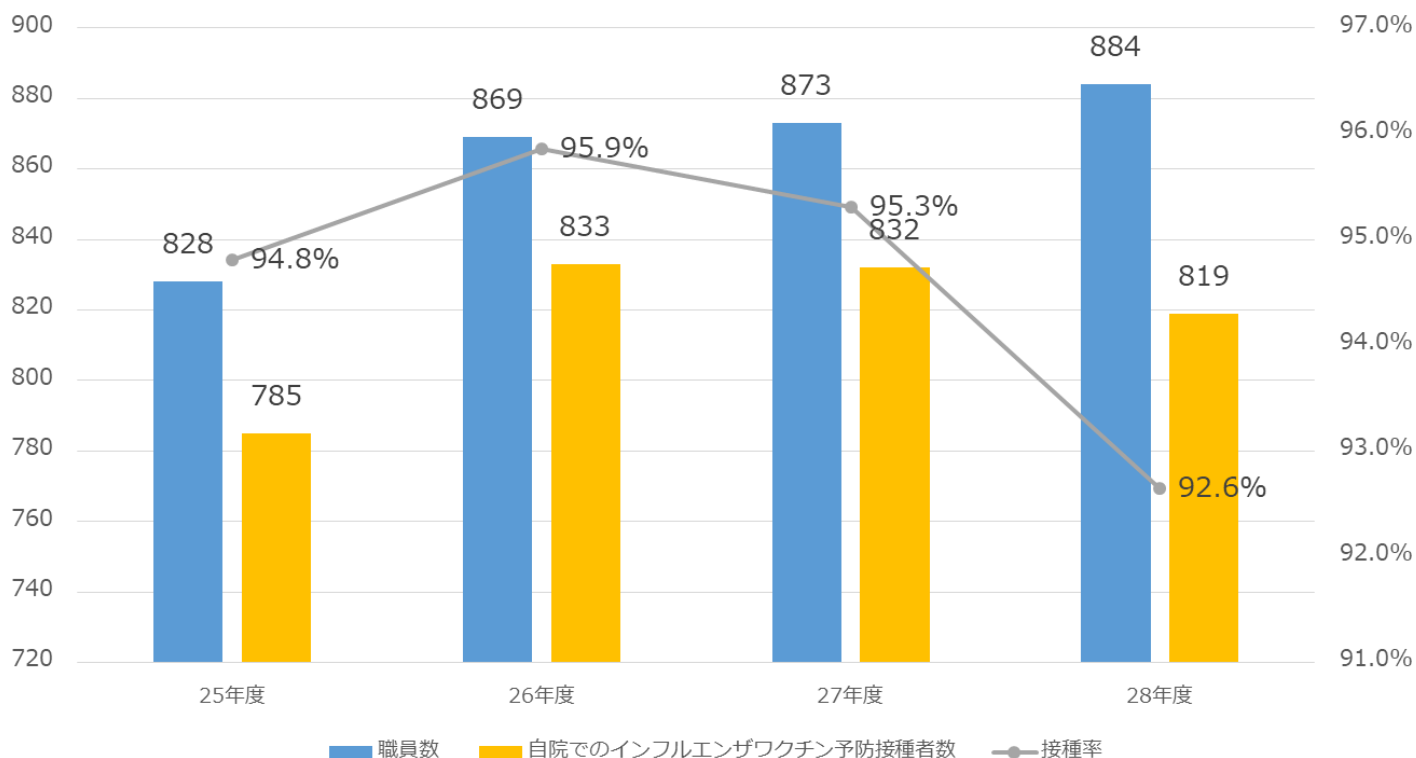
- 職員のインフルエンザワクチンの接種率は、患者の安全に関わる問題である。
- 医療機関を受診する患者は、免疫力が低下していることが多く、病院職員からの感染を防止する必要がある。
- 接種率が高い場合には、院内感染防止対策に積極的に取り組んでいると評価できる。

分子：自院でのインフルエンザワクチン予防接種者数

分母：職員数(11月1日現在)

参考値：94.4%

(引用元：「平成27年度労働者健康福祉機構臨床評価指標」全労災病院の平均値)



接種率は90%以上で推移し、例年全労災病院平均を上回っていたが、28年度は若干減少した。